



2月議会での小宮さん

小宮敬子議員、フッ化物洗口について質問する！①

小宮敬子議員はみなさんもお存じのように、福岡県教職員組合北九州支部（現北九州市教組）の支部長を2012年にされていました。昨年の北九州市市議会議員選挙で日政連議員の福島司さんの後継者として門司から立候補し、見事に当選されました。2月議会

では、「小学校35人以下学級の実施について」「学校教育におけるジェンダー平等の実現に向けて」「災害対策について」の一般質問を行いました。9月議会では「小中学校におけるフッ化物洗口について」「車いす使用者の駐車場利用について」の一般質問を行いました。**元教員としての視点**を大切に、市教組と事前の打合せを重ね質問に立っています。今回は、「**フッ化物洗口**」について、教育長とのやりとりをお伝えします。



(小宮市議の質問) フッ化物洗口を実施するには、課題があります。**1つ目は**、小・中学校の1日の時程にフッ化物洗口を入れる**時間的余裕**がないということです。子どもたちは通常の授業に加え、学力体力向上の取組、読書活動、補充的な学習にひまわり学習塾などに取り組んでいます。県のフッ化物洗口マニュアルでは、教室で洗口液を一人ひとりに定量配布、洗口後吐き出した洗口液の片付け、30分はうがい飲食禁止です。口の中の不快感を抱えたまま授業を受ける子もいるでしょう。子どもたちの学校での**生活時間に余裕がなくなります**。



2つ目は、安全性の確保です。フッ化物洗口薬剤は医薬品であるので各施設において鍵のかかる場所に厳重に保管し歯科医師の指示のもと計量・作成を行う必要があります。急性中毒の心配はないと言われているが、**ヒューマンエラー**を起こさないための**厳格な管理体制**を各学校でつくることは可能なのでしょうか。

3つ目は、教職員の業務の増加です。まず、指示書に従って水と洗口剤を正確に計量し、洗口液を作ります。次にクラスごとに必要人数分の洗口液を容器に入れ、コップなどを準備し衛生的な場所で管理します。準備した洗口液をクラスごとに配付し、教室では洗口希望者をチェックして一人ひとりに洗口液を定量配付します。洗口指導と事後指導を行い、子どもが吐き出した洗口液入りのコップや容器を回収します。最後に洗口液の容器を洗浄・乾燥し保管します。**一回の洗口にこれだけの業務**があります。これを行うのは担任や養護教諭でしょうか。

小宮議員はこのように、①「フッ化物洗口を実施することによりますます子どもたちの学校での生活時間に余裕がなくなるのでは」②「各学校でヒューマンエラーを起こさないための厳格な管理体制をつくることができるのか」③「教職員の業務の増加につながるのではないか」という**元教員としての経験に基づいた質問**をされました。教育長答弁は次号に掲載します。



わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！

/// JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

